

## 第73回県立谷地高等学校卒業式 答辞

冬の厳しい寒さも和らぎ、春の訪れがもうすぐ感じられるこの佳き日に、私たち120名は卒業の日を迎えることができました。私たちのために卒業式を挙げていただき、心から感謝します。

3年間の充実した高校生活を送ることができたのは、120名の同級生、後輩や先輩、先生方、そして家族など多くの人の支えがあったことです。本当にありがとうございました。

思い起こせば3年前の春、私たちは真新しい制服に身を包み、少しの不安を抱きながらも、期待に胸をふくらませ、この谷地高校に入学しました。中学校とは違い、教科数も増え、学習内容もますます難しくなり、慣れない環境での毎日に戸惑うことも多くありました。しかし、日がたつにつれ、仲間との絆も深まり、不安も徐々になくなっていきました。振り返ると、入学してから仲間と共に歩んできた3年間はあっという間でした。

仲間と過ごした何気ない日々も、今ではかけがえのない時間に思えます。クラスマッチや学校祭、修学旅行など、一つ一つが今とても大切な行事でした。その中で、くだらないことで笑い合ったり、時には喧嘩したり、他の人からみれば些細なことでも、私たちにとっては忘れられない思い出です。

そして私たちは3年生となり、今まで以上に、生徒会活動や部活動、そして進路実現に向けて、力の限り努力を重ねてきました。活動を成功させる中で、辛いことや苦しいこと、思い通りにいかず、悔し涙を流した日もありました。投げ出しそうになった時、いつも「みちしるべ」という言葉を仲間と声掛けし、乗り越えてきました。この「みちしるべ」は生徒会スローガンで、私たちが掲げ、目標を見失わずに励み続けるという意味を込めました。私は挫けそうになった時、いつもこの言葉に助けられ、目標に向かって励み続けることができました。

最初は手に届く中での頑張りでも、努力し続ければ、はるか遠く思えた困難も、いつの間にか乗り越えていました。その継続した努力は、次第に強さと自信へと変わっていきました。誰にでも変わるチャンスがあります。在校生の皆さん、目標を掲げて高校生活を送ってください。そうすれば、変わることも成長することも出来るはずですよ。

今の私達がいるのは、優しく時には厳しく導いてくださった先生方、いつも変わらぬ愛情で見守り続けてくれた家族、そして何よりも、辛いこと嬉しいことを共にした仲間がいたからです。谷地高校で出会った仲間、この学び舎で学んだ多くのこと、数々の思い出はかけがえのない宝物です。これから私達が出ていく社会では、今まで経験したことのない壁にぶつかることもあると思います。そんな時、この学び舎で学んだことは必ず役に立つはずですよ。谷地高校で成長した私達は、その壁を乗り越え、自分の夢へと歩いていきます。私達にかけがえのない思い出と、弱さに負けず、強くなるチャンスを与えてくれた仲間、先生、そして愛情の全てを注いでくれた家族、本当にありがとうございました。

後輩の皆さん、生徒会活動や部活動など、様々な場面で支えてくれたこと、とても心強かったです。これからも自分や仲間を大切に、夢に向かって歩いてください。

谷地高校の一層の発展を願い、答辞といたします。

令和3年

卒業生代表 秋山 颯太